



明るい漁村



CONTENTS

漁業協同組合JFしまね第7回通常総代会開催	2
JFしまね会長あいさつ	3
新役員名簿	4
平成23年度決算状況	4

平成24年度事業計画	5～6
JFしまねとイオン直接取引規模拡大へ	7
浜の出来事	8



第7回

漁業協同組合
JFしまね

通常総代会



岡本昭二 島根県議会
水産振興議員連盟会長



原 成充 島根県議会議長



溝口善兵衛 島根県知事



大田地区 木村武好 議長

総代会では冒頭に岸 宏JFしまね会長が挨拶し、引き続き来賓の溝口善兵衛島根県知事、原成充島根議会議長、岡本昭二島根県議会水産振興議員連盟会長から祝辞を戴いた。

去る6月30日(土)午前10時より松江東急イン(松江市朝日町)で出席総代145名(内本人出席108名、委任状による出席6名、書面による出席26名)により第7回通常総代会が開催された。

- 続いて議事に移り、議長に大田地区・木村武好総代が選任され、以下の通り審議がなされた。
- 第1号議案 平成23年度事業報告及び剰余金処分案に関する件
 - 第2号議案 平成24年度事業計画に関する件
 - 第3号議案 平成24年度における借入金 の最高限度に関する件
 - 第4号議案 定款の一部改正に関する件
 - 第5号議案 平成24年度における理事及び監事の報酬に関する件
 - 第6号議案 平成24年度賦課金の徴収に関する件
 - 第7号議案 出資金配当を増資に充当する件
 - 第8号議案 役員退任慰労金支給に関する件
 - 第9号議案 任期満了に伴う役員選任に関する件
- 全9議案とも原案通り承認され総代会は終了した。

代表理事

代表理事会長 岸 宏



本日、漁業協同組合JFしまね第七回通常総代会をご案内致しましたところ、各地区から総代の皆様のご出席を頂くと共に公務ご多繁の央、溝口島根県知事様・原島根県議会議長様を初め、多数のご来賓のご出席を賜り、盛大に開催できます事を先ずもって厚くお礼申し上げます。

昨年三月発生の東日本大震災による被災漁村・漁業者の復興支援のため、全国運動として実施された「がんばる漁業募金」には、多大なるご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げますと共に、被災者

の皆様・被災地の一日も早い復興を願ってやまないところであります。

さて、平成二十三年度の本県海面漁業生産高は、一五万三千トン・二〇〇億円と、基幹漁業である旋網漁業の大巾な伸長と各種漁業の堅調な推移に支えられ、前年比、量で一・二七％・額で一・一三％の実績となりました事は漁業者各位の不断のご努力の賜と深く敬意を表するところであります。

しかし乍ら、漁業を取り巻く環境は、水産資源の減少や高船令化による操業効率の低下、燃油の高止まりによるコスト増、更には消費需要の低迷や低価格志向の浸透による魚価安等、依然として厳しいものがありました。

このような中で昨年は、懸案でありました統合大社水産物卸売市場の完成、浜田港・境港における鮮魚自動選別機の新設、沖合底曳

網漁船のリシップ事業等が開始する一方、燃油高騰下にあつて、一昨年創設して頂いた全国唯一の県単燃油価格支援制度が、国のセーフティーネット事業に併せ発動し、漁業者負担の軽減に大きく寄与することとなりました。

これら各種施策の実現に当たりまして、島根県知事様並びに県議会の先生方には格別なるご支援を賜り厚くお礼申し上げる次第であります。

平成二十三年度決算の結果は、後程ご報告申し上げますが、所定の諸引当金計上後、当期剰余金は三億二千万円余となり、法定積立金・特別積立金を積んだ後の剰余金は、出資配当金・事業分量配当金をもつて組合員に還元すると共に、一部を教育情報資金として繰越することと致した次第であります。

組合員各位のご協力に心から感謝申し上げますと共に関係各位のご支援に深く謝意を表する次第であります。

次に、平成二十四年度の運営に当りましては、合併以来の六年間の成果と反省を真摯に踏まえ、改めて新三カ年計画を策定のうえ「組織の融合一体化」「魚食普及・

魚価向上と流通経費縮減」「経営財務基盤の確立強化」を三本の柱として「ゆるぎない信念をもつたゆまざる努力」を傾注し乍ら、JFしまねの将来展望を確かなものにする事が肝要と考えます。

尚、本年度の重点課題としては、大田市管内四市場を統合する新卸売市場等の建設、更には平成二十年度から取組んで参りましたイオンとの直接取引について、今般イオンが松江駐在員事務所を開設し、専任バイヤーを配置した事に伴ない従来の「一船全量取引」に加え、JFしまね自己買参権を活用して、島根県内各市場・境港市場における鮮魚買付業務を強化のうえ、これまでの西日本エリアまでの二〇〇店舗に拡大し、年間二千トン・二十億円を目標に積極的に取組むこととしていますので、組合員各位の一層のご協力をお願いするものであります。

本日の総代会は、平成二十三年度決算・平成二十四年度事業計画等諸案件を上程しておりますので充分にご審議のうえご承認賜りますようお願いしご挨拶と致します。

新役員名簿

◆理事16名

代表理事 岸 宏
副会長 金坂 敬
専務理事 岸本 良男 (昇任)
常務理事 築谷 充行 (昇任)
常務理事 中尾由岐夫 (昇任)
理事 曾田 利行
理事 吉原 幸則
理事 中島 謙二
理事 葛西 清秀
理事 金築 義信
理事 山内 雪久
理事 善浪 洋 (昇任)
理事 長府 吉信 (昇任)
理事 小川 涉 (昇任)
理事 野津千寿夫 (昇任)
理事 青山善一郎 (昇任)

◆監事5名

代表監事 堀 守 (昇任)
監事 木村 次郎 (昇任)
監事 萬 康 (昇任)
監事 神門 勉 (昇任)
常勤監事 鍛冶 和伸 (昇任)

貸借対照表

■平成24年3月31日現在

(単位：円)

資 産		負債及び純資産	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
1 信用事業資産	38,167,992,050	1 信用事業負債	40,261,158,928
2 共済事業資産	3,319,186	2 共済事業負債	136,422,483
3 流動資産	2,708,060,877	3 流動負債	1,958,612,745
(1) 経済事業未収金	1,894,460,405	(1) 経済事業未払金	1,544,909,244
(2) 経済事業雑資産	139,403,376	(2) 経済事業雑負債	15,447,484
(3) 棚卸資産	785,845,806	(3) 未払法人税等	9,024,000
(4) その他の流動資産	227,078,334	(4) その他の流動負債	389,232,017
(5) 貸倒引当金	△ 338,727,044	4 固定負債	1,047,390,566
4 固定資産	8,582,628,851	(1) 長期借入金	290,753,811
(1) 有形固定資産	4,864,139,285	(2) 受入保証金	718,443,555
減価償却資産	12,966,910,611	(3) 出資預り金	38,193,200
減価償却累計額	△10,295,730,249	5 諸引当金	2,225,275,128
土地	2,182,515,023	(1) 賞与引当金	80,015,850
建設仮勘定	10,443,900	(2) 退職給付引当金	2,107,116,778
(2) 無形固定資産	9,683,349	(3) 役員退任慰労引当金	33,142,500
(3) 外部出資	3,269,137,824	(4) 遭難救助引当金	5,000,000
系統出資	2,732,192,477	6 再評価に係る繰延税金負債	19,306,757
系統外出資	510,212,343	負債の部合計	45,648,166,607
子会社等出資	26,733,004	(純資産の部)	
(4) 長期特定資産	7,127,500	1 出資金	3,291,000,000
(5) その他の固定資産	1,056,504,527	2 資本準備金	13,536,562
(6) 貸倒引当金	△623,963,634	3 利益剰余金	545,757,867
		(1) 利益準備金	166,943,449
		(2) その他利益剰余金	378,814,418
		特別積立金	49,499,689
		当期末処分剰余金	329,314,729
		(うち当期剰余金)	326,936,933
		4 処分未済持分	△ 87,080,000
		組合員資本合計	3,763,214,429
		1 土地再評価差額金	50,619,928
		評価・換算差額等合計	50,619,928
		純資産の部合計	3,813,834,357
資産の部合計	49,462,000,964	負債及び純資産の部合計	49,462,000,964

平成 23 年度

決算状況

平成23年度決算の概況は次のとおりです。
本組合事業にご協力賜りました組合員各位、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

損益計算書

■平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
1 事業総利益	2,646,570,295
信用事業総利益	330,746,458
共済事業総利益	83,608,187
購買事業総利益	501,567,444
販売事業総利益	1,461,088,529
製氷冷凍事業総利益	130,432,376
加工事業総利益	14,854,070
利用事業総利益	23,549,085
漁業自営事業総損失	△ 1,524,452
漁場利用事業総損失	△ 32,326
指導事業収支差額	102,280,924
無線事業収支差額	0
2 事業管理費	2,399,244,819
(1) 人件費	1,684,705,366
(2) 旅費交通費	20,935,260
(3) 業務費	79,623,131
(4) 諸税負担金	71,843,006
(5) 施設費	327,376,728
(6) 減価償却費	185,660,813
(7) 雑費	29,100,515
事業利益	247,325,476
3 事業外収益	141,367,817
4 事業外費用	28,326,131
経常利益	360,367,162
5 特別利益	2,819,939
6 特別損失	27,226,168
税引前当期利益	335,960,933
法人税・住民税及び事業税	9,024,000
当期剰余金	326,936,933
前期繰越剰余金	2,377,796
当期末処分剰余金	329,314,729

事業計画

平成24年度の組合運営に当たっては、基本方針に基づき、「組織の融合一体化対策」、「魚食普及・魚価向上・流通経費縮減対策」、「経営財務基盤の確立強化」を重点推進事項として積極的に事業を推進していくものとする。

重点推進事項

1. 販売事業

- ① JF市場への組合員全出荷体制の確立に努める。
- ② 販売事業統括部を核とする各支所販売部門間の連携を強化する。
- ③ 組合員への市況等の情報周知と出荷指導に努める。
- ④ 魚食普及・魚価向上・流通経費縮減対策へ積極的に取り組む。

2. 購買事業

- ① 漁業経営セーフティネット構

築事業の積極活用を図る。

- ② 石油購買事業における物確保と安定供給に努める。

- ③ 魚箱安定供給体制の確立を図る。

- ④ 在庫管理の徹底と取扱品目の見直しを行う。

3. 信用事業

- ① 貯蓄推進委員会等との連携による貯金量412億円の達成を目指す。

- ② 信用事業リスク体制整備と自己資本比率の向上を図る。

- ③ 漁業信用保証業務との連携による漁業経営改善の支援を行う。

4. 共済事業

- ① JF共済の『チョコー』は、万一の場合などを保障しながら貯蓄機能もあるJF共済を代表する長期の生命共済で、入院や手術、通院などお客様のニーズにあった保障が選択できる共済であり、万一の場合を一生涯にわたり保障する終身共済を主体に契約者を拡大し、『チョコー』の保有残高の拡大を目指す。

- ② JF共済の『くらし』は、貯蓄

をしながら建物や家財などを火災や自然災害から守る総合的な補償で、満期時の満期共済金により増改築時にも役立つ共済であり、万一の自然災害の損害に対しても安心できる補償提供を目的に、加入者の拡大を目指す。

5. その他の事業

- ① 冷凍冷蔵事業については、販売部門との連携を強化し、魚価の安定と向上に積極的に取り組むとともに、境港支所と連携し恵曇冷凍冷蔵庫の稼働率の向上を図る。

- ② 製氷事業については、販売部門との連携強化及び恵曇冷蔵庫・製氷工場や境港製氷工場の稼働率の向上を図りながら、境港・大田・浜田製氷工場を核とする氷供給体制を構築する。

- ③ 既存の加工施設の再点検・リニューアルにより新規活用を図るとともに、不採算事業の整理と新規事業の開拓に取り組む。

- ④ 「JFしまね漁業無線局」を有効に活用し、組合員への気象情報及び海上防災情報、漁海況速

報の提供による海難事故の未然防止と操業効率の向上に努める。

- ⑤ 指導事業については、水産基本政策、輸入水産物・TPP貿易自由化対策のほか、200海里水域対策として、日韓協定・暫定水域民間協議対策、暫定水域・EEZにおける韓国漁船対策、竹島領土権確立運動の積極的展開と安全操業対策とともに、漁業振興対策として、担い手・後継者育成対策、繁殖保護・漁場管理・資源管理・収入安定対策・営漁指導・生産、販売流通対策等を行う。

平成 24 年度

賦課金の徴収について

総代会で承認された賦課金の徴収につきましては、次のとおりです。

■ 賦課金の金額

正組合員 年間 3、000 円
准組合員 年間 2、000 円

JFしまね漁業無線局賦課金徴収については、次のとおりです。
■ 賦課金の金額

区 分	年 額
漁業種別賦課額	
沖合底曳網（2そう曳1ヶ統）	216,000円
沖合底曳網（1そう曳）	108,000円
旋網（100t以上船1隻あたり）	100,000円
旋網（100t未満船1隻あたり）	搭載する無線機種別賦課金額とする。
無線機種別賦課額	
27メガ DSB 1W	16,800円
27メガ SSB 25W	30,000円
40メガ DSB 5W	30,000円
40メガ DSB 5W(准加入)	36,000円
※無線機併設船については、高額な方の賦課額とする。	

平成24年度主要事業取扱計画

■平成24年4月1日から平成25年3月31日

(単位：千円)

部 門	金 額	備 考
経 済	石 油 類 6,758,936	
	購 買 事 業 資 材 類 1,127,178	
	合 計 7,886,114	
事 業	受託販売取扱高 22,734,807	
	販 売 事 業 買 取 販 売 3,347,197	
	合 計 26,082,004	
業	冷凍品販売高 1,740,982	
	冷 凍 冷 蔵 事 業 保 管 料 193,072	
	合 計 1,934,054	
業	製 水 事 業 水 供 給 高 704,942	
	加 工 事 業 加 工 品 販 売 高 145,010	
	受 入 加 工 料 6,280	
合 計 151,290		
利 用 事 業	受 入 利 用 料 180,494	
漁業自営事業	販 売 高 154,712	
経済事業総取扱高		37,093,610
信用事業	貯 金 41,152,577	
	預 け 金 29,550,000	
	貸 出 金 7,308,126	
	有 価 証 券 1,800,000	
共 済 事 業	普通厚生共済(チョコー) 42,500,000	
	長期共済保有高 生活総合共済(くらし) 13,000,000	
	合 計 55,500,000	
	共水連元受契約に係るもの ねんきん 49,000	
共 済 事 業	乗組員厚生共済(ノリコー) 8,000,000	
	短期共済保有高 火災共済(カサイ) 22,000,000	
	合 計 30,000,000	

平成 24 年度 収支計画

■平成24年4月1日から平成25年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
1. 事業総利益	2,522,221
〔信用事業総利益〕	285,684
〔共済事業総利益〕	81,565
〔購買事業総利益〕	625,521
〔販売事業総利益〕	1,176,798
〔買取販売事業総利益〕	119,073
〔冷凍冷蔵事業総利益〕	13,158
〔製水事業総利益〕	163,569
〔加工事業総利益〕	12,707
〔利用事業総利益〕	7,473
〔その他事業総利益〕	-859
〔無線事業総利益〕	0
〔指導事業総利益〕	37,532
事業収益計	16,909,820
事業直接費計	14,387,599
2. 事業管理費	2,315,906
(1) 人件費	1,636,476
(2) 旅費交通費	23,529
(3) 業務費	80,456
(4) 租税公課	51,982
(5) 負担金	17,867
(6) 施設費	322,026
(7) 減価償却費	157,761
(8) 雑費	25,809
事業利益	206,315
3. 事業外収益	100,071
4. 事業外費用	7,021
経常利益	299,365
5. 特別利益	7,130
6. 特別損失	18,289
税引前当期剰余金	288,206
法人税・住民税	87,000
当期剰余金	201,206



イオンリテール(株)村井社長(左)とJFしまね岸会長(右)



-JFしまねとイオン- 直接取引規模拡大へ ～イオン 200 店舗へ～

燃油価格高騰対策の一環として、漁業者の手取り収入が増える流通形態を目指すことを目的に、2008年8月にスタートしたイオンリテール(株)との直接取引も今年で4年目を迎え、これまでの近畿、中国、四国のイオン80店舗から、首都圏と東海、北陸の一部のイオン120店舗を新たに加えた計200店舗へ対象店舗を拡大し取引をしていくこととしました。

6月23日、イオン品川シーサイド店(東京)で開催されたイベントでJFしまね岸会長は、「関東一円でも島根の魚を食べてもらえることになった。漁師とともに、とにかく良いものを届けるので、島根の魚をよろしくお願いたい」と挨拶。イオンリテール(株)村井社長も、「近畿・中四国で好評な島根の魚を関東でも食べてもらい、岸会長の『島根の浜の潮風と漁師の心意気を消費者に届けた』という思いをイオンで実



島根の魚をPRするJFしまね岸会長

現し、島根のファンになってほしい」と島根の魚をアピールしました。

直接取引は、今後も月3～4回のペースで実施する予定とし、対象店舗の拡大により心配される出荷供給量の確保については、JFしまねが開設する市場での「自己買参権」の活用によりそれを補い、更に、産地市場にて内臓処理や三枚おろしなど消費者ニーズを踏まえた一次加工にも取り組みながら、市場、漁業の活性化を促し、魚食文化の拡大と漁業者の収入増に繋がることを目指して行きます。

東日本大震災復興支援イベント開催

「マグロでTUNA (つな) がる心と心」

去る7月7日、東日本大震災の復興支援活動の一環としてJFしまねは、イオンリテール(株)と連携して、一日も早い復興に向け元気になってもらおうと、境産本マグロ50本を、宮城・福島両県のイオン16店舗に直送し、「マグロでTUNA (つな) がる心と心」と題した復興支援イベントを昨年が続いて開催しました。宮城県名取市のイオン新名取店でのイベントでは、復興支援活動の趣旨に賛同した輪島漁業生産組合(石川県輪島市)所属のマグロまき網船が境産で水揚げした本マグロ(約60キ)が無償で提供され、約800人前に捌かれた刺身がわずか30分で無くなったほか、切身にして販売されたマグロも普段の半値以下ということもあり、かなり人気が集まったとのこと。JFしまねでは引き続き出来る限りの支援をしていくこととしております。



(左から)島根県 原農林水産部長、JFみやぎ 菊池会長、JFしまね岸会長(中央)、イオンリテール(株) 近澤取締役兼執行役員副社長、輪島漁業(生)石井参事

浜の出来事



県下一斉 海浜清掃活動

今年も7月の「海の日」を中心に、県下一斉海浜清掃活動が県内各地区で開催されました。

各地区漁業者をはじめ、漁協女性部や地元自治会、JFしまね職員や水産関係団体、PTA親子や行政団体など総勢2,400名が参加。連日の雨の影響で河川からの流木や枯れ木が目立った地区もあったようですが、外国製のプラスチック容器や漁具・漁網など漂着ゴミをはじめ、空缶やペットボトル、弁当殻など「ポイ捨て」ゴミも多数回収されたようです。

一人ひとりが「ゴミを持ち帰り」「海を汚さない」という気持ちを持ちながら、更にこの清掃活動の輪が広がることで「きれいで豊かな島根の海」に繋がることを願っています。

参加者

2,448名

回収ごみ合計

一般ごみ 1,913袋

不燃ごみ 1,872袋

その他2トトラック

4台及び焼却



2012海の日清掃活動実施状況

実施日	JFしまね	地区名	参加人数	ゴミの量		実施日	JFしまね	地区名	参加人数	ゴミの量	
				一般ゴミ	不燃ごみ					一般ゴミ	不燃ごみ
7月14日	美保関支所	七類地区	60	40	40	7月14日	恵曇支所	古浦海岸	60	72	4
7月15日		笠浦地区	140	300	300	7月15日		御津地区	20	30	10
7月14日		美保関地区(美保関、海崎、長浜、雲津)	100	100	20	7月14日	大社支所	大社港周辺	20	10	10
7月16日	島根町支所	福浦地区	16	15	少量	7月15日		湖陵港周辺	50	50	50
7月16日	平田支所	大芦地区	100	150	70	7月15日	大田支所	和江地区(静瀬川西側海岸)	320	※	※
7月16日		十六島地区	70	※	※	7月20日~21日	仁摩支所	仁摩漁港・宅野漁港周辺	80	10	10
7月16日		河下地区	40	50	100	7月14日	浜田支所	浜田港周辺	119	60	60
7月15日	平田支所	塩津地区	70	100	100	7月15日		江津地区(黒松漁港周辺)	16	60	11
7月15日		美保地区	30	50	100	7月16日	益田支所	益田支所管内11地区地先海岸	300	40	100
7月15日		小伊津地区	170	100	100	7月14日	西郷支所	西郷地区(西郷港内海浜)	45	120	80
7月15日		三津地区	50	50	100	7月22日		蛸木地区海浜	20	20	20
7月15日		小津漁港周辺	35	50	50	7月15日		油井地区海浜	20	20	25
7月15日		坂浦地区	150	200	200	7月15日		釜や地区海浜	35	40	30
7月15日		地合地区	130	60	120	6月24日		那久地区海浜	80	50	50
7月15日	釜浦地区	30	50	100	7月14日	浦郷支所	知夫地区(淡島、島津島、長尾、薄毛)	72	16	12	



※印はトラック回収又は焼却処理

◆皆様からのご意見やご感想、ひとこと随想、また漁村に関する話題などお待ちしております。

〒690-0007 島根県松江市御手船場町575番地

漁業協同組合 JFしまね「明るい漁村」係

※E-mail: shidou@jf-shimane.or.jpまたは、

FAX: 0852-27-6130でもお寄せ下さい。

◆本誌のバックナンバー(pdf形式)をホームページで公開しています。

<JFしまねWEBサイト>

<http://www.jf-shimane.or.jp/akarui.html>

温かい真心に感謝

【募金・香典返し】

鍛 繩 吉 谷 村
冶 田 本 松
和 博 寿 隆 博
伸 明 美 臣 孝



※漁船海難遺児を励ます島根県地方協議会へご寄付頂いた方々のご芳名を掲載し、厚くお礼申し上げます。

編集後記

朝晩めっきり寒くなり、極暑だった夏が懐かしく思える季節となりました。今年は特に「夏枯れ」と言われる不漁が続く中、大型クラゲの襲来も噂されておりましたが、ここに来て秋漁らしく各港が賑わいをみせはじめ、大型クラゲの心配も無さそうです。これからまだまだ寒くなると同時に時化日も多くなると思いますので、航行・操業には十分に気をつけて頂きながら、年末に向け各地で豊漁が続くことを願っています。(N)